



TITLE:

## 生活史研究部門(I 研究所の概要)

AUTHOR(S):

杉山, 幸丸; 田中, 二郎; 小山, 直樹; 大澤, 秀行

---

CITATION:

杉山, 幸丸 ...[et al]. 生活史研究部門(I 研究所の概要). 霊長類研究所年報  
1979, 8: 14-15

ISSUE DATE:

1979-01-13

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162832>

RIGHT:

かけて研究所特別事業費により、ゲラダヒヒを中心に調査をおこなう予定である。上記 1), 2) と同じ手法を用いてヒヒ類の種分化の問題に遺伝学的にアプローチしようとしている。

- 6) オナガザル科 3 属に見られる属間遺伝的変異に関する研究

川本 芳<sup>1)</sup>・庄武孝義・野澤 謙

1), 2), 5) で用いた材料に加えて 1975 年度学術調査の際に入手したエチオピア産グリベットモンキーを加え、オナガザル科の代表的な 3 属, *Macaca* 属, *Papio* 属, *Cercopithecus* 属の遺伝的変異を定量し属間比較をおこなった。結果を遺伝学会にて発表した。

- 7) ネパールにおけるヒマラヤンラングール, アカゲザル, アッサムモンキーの生物地理学的研究

和田 一雄

1977 年度は 3 種が混在する地域における食性, 個体数, 同一地域での 3 種の土地利用に焦点を合わせて観察した。

- 8) 志賀高原雑魚川, 魚野川におけるニホンザルの生態調査

和田 一雄

両流域における群れ数, 群れの大きさ, 食性を調査した。

## 総 説

- 1) 庄武孝義(1978): 霊長類の遺伝的分化。科学, 48: 240-246.

## 論 文

- Shotake, T., K. Nozawa and Y. Tanabe (1977): Blood protein variations in baboons. I. Gene exchange and genetic distance between *Papio anubis*, *Papio hamadryas* and their hybrid. *Jap. J. Genetics*, 52: 223-237.
- Shotake, T., Y. Ohkura and G. Ishimoto (1977): Genetic polymorphism of blood proteins in the troops of Japanese macaques, *Macaca fuscata*: V. Erythrocyte phosphohexose isomerase polymorphism. *Primates*, 18: 285-290.
- Shotake, T., Y. Ohkura and K. Nozawa (1977): Genetic polymorphisms of blood proteins in the troops of Japanese macaques, *Macaca fuscata*: VI. Serum transferrin polymorphism. *Primates*, 18: 291-287.
- Tanabe, Y., H. Tanase, T. Omi, T. Shotake and K. Nozawa (1977): Further studies on polymorphism of thyroxine-binding prealbumin (TB-

PA) in primate species. *Jap. J. Genetics*, 52: 319-322.

- 5) Abe, H., Y. Hasegawa and K. Wada (1977): A note on the air-sac of Ribbon seal. *Sci. Rep. Wales Res. Inst.* 29: 129-135.

## 報 告・その他

- 和田一雄 (1977): ニホンザルの年令をよむ。モンキー, 156, 20-23.
- 伊藤徹魯, 加藤秀弘, 和田一雄, 島崎健二, 荒井一利 (1977): 北海道におけるトドの生態調査報告(I) (II). 魚京研通信, 305, 1-8, 306, 9-18.

## 学 会 発 表

- 1) オナガザル科 3 属に見られる属間遺伝的変異  
川本 芳, 庄武孝義, 大倉よし子, 野澤 謙, 田名部雄一

第49回日本遺伝学会(1977).

- 2) 蛋白質多型の保有機構, ニホンザルの場合

野澤 謙

第49回日本遺伝学会シンポジウム (1977)

- 3) 電気泳動的に識別可能な霊長類のヘモグロビン  $\alpha$  鎖,  $\beta$  鎖変異

川本 芳・竹中 修

庄武 孝義・野澤 謙

第22回プリマーテス研究会 (1978)

- 4) 血液蛋白質の変異からみた *Macaca assamensis*, *M. radiata* そして *M. mulatta* の種間関係

庄武孝義・川本 芳・小寺重孝

谷岡功邦・野澤 謙

第22回プリマーテス研究会 (1978)

- 5) ニホンザルの集団構造

野澤 謙・川本 芳・庄武孝義

第22回プリマーテス研究会 (1978)

## 生活史研究部門

杉山幸丸・田中二郎

小山直樹・大澤秀行

## 研 究 概 要

- 1) ニホンザルの個体群生態学

杉山幸丸・小山直樹・大澤秀行

本部門創設以来, 中心課題の一つとしてこの問題に取り組んできた。超大型餌付群の高崎山では量的取扱いとサンプル追跡により, 四半世紀に及ぶ継続全個体識別下の嵐山餌付群では精密な全個体の履歴把握を, 1973年夏をもって餌付けを放棄した霊仙山の 2 群では餌付け下と

自然条件下での比較研究を、とくに人口学的観点に柱を立てて分析を進めている。高崎山および嵐山の資料により、餌付群の生命表はほぼ描き上げるに至ったが、雄の群れ離脱後の軌跡、寿命と死亡要因、家系と出産率など、群れを超えた現象や世代をまたがる現象についてはまだ解明できていない部分が多く残されている。一方、霊仙山の野生群による研究は出産率、乳児死亡率、初産年齢等において上記の生命表に重要な修正を加えた。

また近年の新知見としては、高崎山における乳児死亡の性差の確認、霊仙山における雄の群れ離脱の量的把握などがあげられる。これらの分析の上に立って社会構造の再検討が行なわれつつある。なお、これらの新知見の一部は昭和52年度共同利用研究会「雌の生活史」で紹介した。

## 2) サバンナ生息哺乳類の個体群生態学

大澤 秀行

エチオピアにおけるゲラダヒヒの研究に引き続いて、ケニアのパブーン、シマウマを中心にサバンナ生息大型中型哺乳類の個体群動態の比較研究を開始した。共通環境への適応の観点から、これら哺乳類の相同的・相類似の生活様式の解明を目指している。

## 3) ヒトとチンパンジーの行動と生態に関する比較研究

杉山 幸丸

西アフリカ・ギニアにおいて、同一地域に住み同一資源を利用する焼畑農耕民とチンパンジーの観察から、資源の利用方法、道具使用の方法、集団構造、人口密度等の現地調査を行なった。その結果はヒト化過程の復元と比較生態学的観点から現在整理中である。

## 4) 狩猟採集民の比較生態学的研究

田中 二郎

1966～1975年におよぶボツワナのブッシュマン、ザイールのピグミーの調査資料の分析により、狩猟採集民の生計様式と社会構造の関連について比較的考察した。

## 5) 遊牧民の生態学的研究

田中二郎、佐藤 俊<sup>1)</sup>

1975年以降、ケニア北部乾燥地域の遊牧民を対象に生態人類学的研究を行なった。野外調査により得た食物、遊動、行動域、集団構造、社会関係等の資料を整理し、ヒトの進化過程の解明といった観点から考察しつつある。

## 総 説

- 1) 杉山幸丸、坂上昭一、中村登流 (1977): “動物社会研究法”, 162 pp., 共立出版, 東京

- 2) 小山直樹、西田恵市 (1977): 嵐山ニホンザルの現状と保護について、にほんざる, No. 3, pp. 94-99.

## 論 文

- 1) 杉山幸丸 (1977): ブドンゴの森のチンパンジー—その社会構造。“チンパンジー記” (伊谷純一郎編), pp. 473-542, 講談社, 東京。
- 2) 田中二郎 (1977): セントラル・ブッシュマンの社会生態学。人類学講座 12, “生態” (渡辺仁編), pp. 352-368, 雄山閣, 東京。
- 3) 田中二郎 (1977): 採集狩猟民の比較生態学的考察—とくにブッシュマンとピグミーについて—。“人類の自然誌” (伊谷・原子編), pp. 3-27, 雄山閣。
- 4) 小山直樹 (1977): ニホンザルの社会構造。人類学講座 2, “霊長類” (伊谷編), pp. 225-276, 雄山閣, 東京。
- 5) Ohsawa, H. (1978): The Local Population and Environment of the Gich Area. “Ecological and Sociological Studies of Gelada Baboons” (M. Kawai ed.), pp. 4-45, Kodansha Ltd., Tokyo.
- 6) Ohsawa, H. (1979): Herd Dynamics. “Ecological and Sociological Studies of Gelada Baboons” (M. Kawai, ed.), pp. 47-80, Kodansha Ltd., Tokyo.

## そ の 他

- 1) 杉山幸丸 (1978): ワシューの言語と規範の転換について。“チンパンジーは語る” (E. ハンデン著, 杉山幸丸・井深允子訳), pp. 321-325, 紀伊国屋書店, 東京。
- 2) 小山直樹 (1977): “人の進化” (D. ビルビーム著, 江原昭善・小山直樹訳), 222 pp, TBS ブリタニカ, 東京。

## 学 会 発 表

- 1) 高崎山生息ニホンザルの人口学的解析  
大澤秀行・杉山幸丸・西郷顕達  
第31回日本人類学会日本民族学会連  
合大会 (1977)
- 2) ニホンザル自然群の個体群動態  
杉山幸丸・大澤秀行  
第25回日本生態学会大会 (1978)

- 1) 京都大学霊長類研究所研修員, 日本学術振興会奨励研究員